

WEST LIFE

令和8年1月14日(水)

校長の目



寒波の影響で寒い日が続いています。朝は氷点下になる日が多くなりました。学校ファームも霜柱が目立つようになりましたが、環境委員の生徒たちがせっせと水やりを行っているので、いくつかの野菜は元気に成長しています。もうじき収穫を迎えるのが白菜です。中心部分の玉がだいぶ大きくなりました。寒さで糖度が増していると思われる所以、肉厚で甘い白菜になりそうです。



年明けからグランド東側の防球フェンスの新設工事がはじめました。これまでの防球フェンスは、高さが低く、また支柱の経年劣化が見られるようになったため、新しく付け替えることになったのです。いま、グラウンド東側部分は、工事用フェンスが立てられ、東門は工事車両が通行できるよう鉄板が敷かれています。また、門も工事用のものに交換されています。生徒の登下校には影響ありませんが、東門を通る場合には十分お気を付けください。なお、工事期間は、3月末までの予定です。



1年生の国語の授業は、ヘルマン・ヘッセの「少年の日の思い出」でした。この短編小説は、70年以上国語の教科書に掲載されており、日本でもっとも読まれている外国文学の一つといつていいと思います。少年時代に蝶の標本集めに熱中していた主人公は、自身の犯した過ちを回想し、起きてしまったことはもう二度と取り戻せないという苦く辛い思い出をいつまでも引きずっており、読者の深い共感をよぶものです。本時は、情景描写に注目して冒頭部分の効果を考えることが、学習課題でした。生徒たちは、小グループになって教科書に傍線を引きながら、意見交換を行っていました。有名な小説には、読者の記憶に深く刻まれる冒頭部分があるのですが、「少年の日の思い出」もその一つです。特徴的な色彩の表現は、これから展開される気持ちの重さや苦しさを暗示させます。



明日、1月15日は、校長が出張で不在のため、「WEST LIFE 校長の目」は、お休みします。